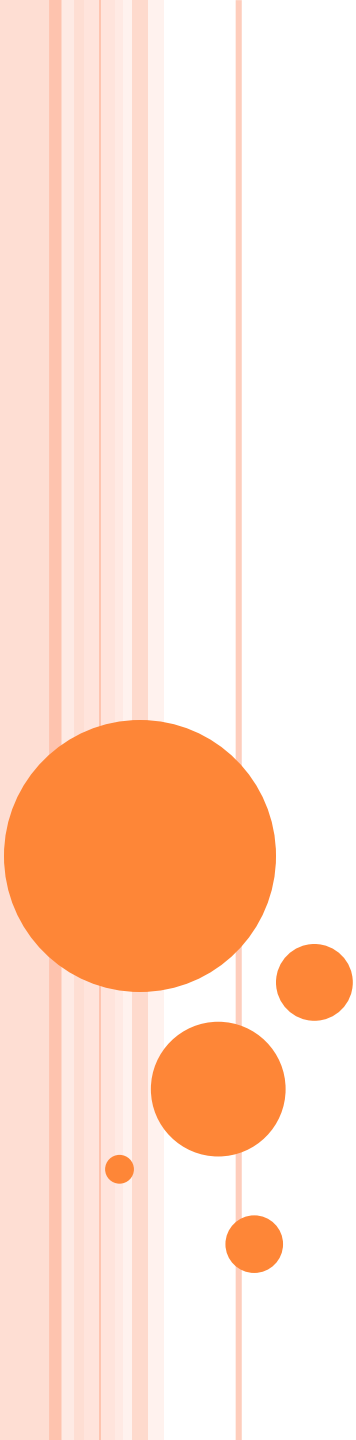




テラー井場

100年のあゆみ

井場洋服店100周年の背景

2017年1月、神戸開港150周年を迎えた神戸の地は、近代洋服発祥の地として広く知られています。紳士服が注文服と称され、英国仕立てをいち早く学んだテーラーが、日本の男性ファッションの最先端を走りだした時代です。洋服の下に着用する、今日でいうワイシャツ（カッターシャツ）は、日本人の装いに見られない、立襟（たちえり）であったことから、ハイカラーと呼ばれ、これがハイカラ＝神戸となって、全国に広まったと伝えられています。神戸は全国に先駆け、洋服文化が芽吹いていたのです。



祖父・井場清彦が大正5年創業

大正5年に幸男の祖父、井場清彦が井場洋服店を創業し

た時代は、洋服が実用化へ、目覚ましい発展を遂げてい

く。洋服が着物を逆転し、街には紳士を装う、ダンディー

たちが神戸の街を引き立たせた。





創業当時の井場ファミリー



前編 創業から終戦まで

明治25年7月22日（1891年）

祖父 井場清彦 岐阜県八神村（現羽島市八神町）に農家の次男として生まれる。

明治43年4月（1909年）

大阪市西区川口町 外国人居留地沿いの洋服店に入店。紳士服の修業に入る。

大正5年6月（1916年）

修業を終え、井場洋服店を神戸市湊西区御崎本町（現兵庫区笠松通り付近）にて開業。当初よりニッケル&ライオンズの総支配人であった伯父から営業支援があったそうである。

大正13年5月25日（1924年）

父 井場正治が長男として生まれる。

昭和20年3月17日（1945年）

神戸大空襲により、店舗兼住居焼失。長田区にあった別宅に避難。



後編 1

昭和21年（1946年）

長田区内長田神社参道筋にて再開店。

昭和22年4月（1947年）

父 正治入店。

昭和25年6月（1950年）

兵庫区上沢通8丁目に新築移転。

昭和27年（1952年） 7月22日

井場幸男（長男）が誕生。

昭和53年（1978年） 2月

幸男、井場洋服店に入店。



後編 2

昭和55年（1980年）4月
テーラー井場に改称。

昭和55年（1980年）2月
祖父 清彦死去（享年89歳）。

昭和61年（1986年）11月
現在地に新築移転。

平成6年（1994年）3月
父 正治死去（享年69歳）。

平成28年（2016年）6月
テーラー井場 100周年を迎える。



2代目正治は戦前・戦後へと継承

2代目正治は、父の仕立て技術を学び、戦前～戦後へと家業を継承。戦中、戦後を切り抜け、日本は高度成長期へ突入。既製服が台頭し、注文洋服業界は徐々に傾斜していく。

昭和29年（1954年、全日本洋服組合刊）の「全日本洋服総鑑」の神戸編・兵庫区には、技術を有する井場清彦（上沢通）の名が記され、テーラーとして隆盛期を迎えていた。





昭和29年の職場（職人に抱かれる幸男＝後の3代目）





戦前初期の井場洋服店（御崎本町）



昭和33年店舗前（父と幸男）





従業員と枚方遊園へのレクリエーション



3代目幸男が持ち前の営業力と人間力を発揮

3代目幸男が父・正治の後を継いだ時期は、テーラー業界は激動の時代に突入していく。しかし、家業の教えを守り、熟練の職人を大事に抱え、手を抜かない、誠実なものづくりを貫く。営業に奔走し、ハンドメイドだけでなく、採寸、補正技術を生かした、縫製工場を活用したオーダースーツにも取り組み、顧客の開拓で売り上げを伸ばしていく。技術とファッションを上手に提案し、神戸にとどまらず、近畿、北陸、関東へと営業エリアを拡大していった。





神戸ものづくり職人大学開講式であいさつをする井場幸男



100周年と業界に感謝を込め 神戸洋服の伝統を若手へつなぐ

業界に支えてもらっての100周年を強調する3代目には、新たな構想が用意されています。それは神戸洋服を未来へとつなぐことです。その第1ステップとして、校長を務める「神戸ものづくり職人大学」の若手テーラーを育てること。業界を底上げし、神戸洋服を継承することでもあります。のちほど、具体的な青写真をここで紹介します。



神戸ものづくり職人大学の卒業生へ神戸洋服のバトンを

井場幸男：「私は神戸市から神戸ものづくり職人大学を受け持ち、若手育成を目指して、微力ながらも、がんばってまいりました。そこで感じたのは、神戸洋服の技術を継承すると同時に、卒業生たちが、近代洋服発祥の地、ここ神戸で活躍できるチャンスを設けなければならないということです。これは大分依然から考えていたことです。この場をお借りして、私の正直な思いを打ち明けるなら、私財を投げ出してでも、若手が活躍の場を神戸の地に作りたいのです。いいえ、そうしたいと実際に考え、行動に移しています。お世話になった業界への恩返しの気持ちも含めて、神戸洋服の未来永劫発展への力になりたいと願っています。業界の皆様、関連商社、団体の皆様に支えられての100周年です。業界へのお礼と感謝の気持ちを込めて、皆様とともにお祝いできれば幸いです」。

